京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十十錢▲特別廣告五號活字七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太
印刷人 松久一馬
發行所 京城小門通 京城新報社 電話大三番 振替口座京城四五一大番
仁川宮町三丁目 電話二一一番 仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町十七番地 東京支局

寄書

スカンヂナビヤ一年間の見聞(十)

在瑞典ストックホルム 三浦彌五郎

▲日本の將來とスキー　故にスキーは越後兒童体育の爲め緊要の具なり新潟縣知事は早くも茲に着意し二月中旬縣下縣立諸學校体操敎師數十名を高田に送りスキー練習を乞ひたるを以て之に應せり云々尙第十三師團の援助の下に越信スキー倶樂部高田支部は高田市役所内に設けられたるに付其の方に向ひ合はするか又は同師團參謀長子爵山口十八氏に問合はさるればスキーに關する詳細を知ることを得べくスキーも同地にて製作せらるゝに付附屬品と共に之を購入することを得べし(御參考の爲め別に瑞典國王及皇族方のスキーにて雪上を運動せらるゝ繪葉書等數葉を呈す)實に帝國も日本の土だけならば七寸の草鞋にて天下を睥睨することを得たるやも知れざれども北朝鮮並に滿洲の寒地に於て永久的發展を遂げんとならば必ずや氷雪を制御するの途を講ぜざるべからず、草鞋、足駄の類にては雪中氷上を馳驅するは不可能なり、尤も京城附近は降雪餘り多からずスキーの用も或は少なかるべしと雖も元山以北及義州邊の如きは其實用甚し偉大なるべしと信ず

▲防寒と護謨の上靴　序を以て當地の防寒に關し實見したる二三の事柄を述ぶべし(一)當地人は下女下男に至る迄冬期中外出するにはガルーシを使用す護謨の上靴是なり、先年赴任の際京城にて探したれども亞米利加製の薄きものゝみにて役に立たず且つ脱き穿きに甚だ不便を覺わしも露西亞及瑞典ガルーシは其の構造厚くして防寒の効あり毛糸の靴下杯を用ゆるを要せず且つ踵の所に三角形の突起ありて兩足にて互に其の突起を押さゆれば手を觸れずとも脱ぐことを得べく穿くときも只靴を足の重みにて突込めば可なり、ガルーシの効能は防寒のみならず、氷の上にても雪の上にても滑ることなし室に入るときには其ガルーシを脱ぎ捨つれば靴は少しも汚れ居らざるなり(代價は當地にて一足一圓五十錢乃至二圓)官衙の昇降口等には能く靴を拭ふべし杯と一々注意札を揭げあれども銘々がガルーシを用ゆるに至れば入口に下駄箱の代りにガルーシ箱を備へ置けば夫れにて十分にて室内の清潔を保つ上に多大の効あるのみならず各自が日々靴を磨くの煩もなきなりガルーシ三足氷滑器と共に小包にて送付す是も京城敎育會の方へ御轉交を乞ふ　ストックホルム

▲市街の氷結と撒砂　市内を散歩するときは公園市街の辻々に砂の積みあるを見る是れ冬期街路結氷して歩行の際滑り易く不便且危險あるときは市の砂撒人は其の砂を少しづゝ街路の人道の上、又は公園内の通路或は傾斜の處に蒔き散らすなり灰よりも扱ひ能きのみならず僅かに鹽を振りたる程輕少なれども滑らざること妙なり曾て京城にて大に滑りたる日を記憶し居るに付些事ながら一言す

●溫突語迷

權太生

◎煽動とは字義の示すが如く、煽つて動かすを云ふ也、猶ほ炭火に於ける團扇の關係の如し、勿論煽ぶればよくオコルべし、然れど煽ぶらざるも炭の置き具合に因ては自然とオコりだすものなるを知らざる可からず、同盟罷業の起る度毎に其罪を必ず煽動者に歸せんとするは之れ恰も炭火のオコルを悉く團扇の所爲とすると同一の愚に非ずや團扇の詮議を廢めよ、然して大阪南地の大火に就て學べ、看よ、一度火を失して風伯蕭々然として之れを驅ればた自慢の蒸氣ポンプなんぞ全く玩弄品の水鐵砲と一般有ても無くても觀あるに非ずや。

◎大火のお附物は遊廓移轉問題也、四十三年に曾根崎新地の移轉論あり、昨年吉原の廢業論あり、而して今回又南地の移轉及び廢止問題起る、移轉を論ずる者は主として市の繁榮地擴大策なるが如く、而して再設廢止論者は例の基督敎一派の風敎論者なるが如し、前者は兎に角、大火にて遊廓地の燒け落ちる毎に得たり賢しと廢娼論を擔ぎ出す、各先生方の擧動師的やり方には感服する能はざる也、如斯實際に於て行ふ可からざる理想論を机上に立ちて辯難するは快は即ち快なる可きも唯快たるに止まるのみ、◎公娼制度も廢棄し、天下の密淫賣婦を一掃せよ、斯くして地上は天國たるべしと云ふか、憐むべき乾からびたる天國なる哉。經濟上の事情に因つて纔に娶の權利さへ奪はれる數十數百數千萬の青年男女は果して如何にして姦淫の罪なき事を得るや、之れ悉く去勢か但しは私通か、禍なるかな人は靈のみにて生くる者に非らず、誠に誠に爾等に告げん、人は食氣と色氣との滿足を得るに非ざれば決して神の國を見る能はざるなり。

外事一束

▲獨逸　各地廿四日を以てフリードリヒ大帝二百年祭の盛大なる祝典を擧ぐ

▲佛國　郵船捕獲事件に就きての佛伊係爭には獨逸政府嚴正中立を維持すと

▲海牙　國際阿片會議閉會し參加の列國委員は何れも同協約に調印したりと

▲伊艦　紅海航行中の墺太利滊船の進行を中止し船体の嚴重なる檢査を行ふ

▲露國　商工務大臣鳥港エルイマ間に新開始の定期航海を義勇艦隊に委托す

▲倫敦　タイムス英帝の露訪問贊成は露國の政策を是認し又た排獨的示威の運動に非ず而も清國及波斯の現狀は大に日露英三國の協力を要すと說く

▲英國　下院議長等先年の露國議員が英訪問に答へ露を訪問し各地に熱誠の歡迎を受く然るに露議會の波蘭黨勞働黨員は其の招待宴出席を拒絕せり

梁川庄八

小金井蘆洲演

第九十一回

才助は直にも跡を慕ふて行きたいが、まだ追ふ譯に行かぬと云ふのは病中でございます、追々全快になると云ふ見込は立て居るがまだ旅中荒い風こゝろではない、少し風でも吹くとゾク〳〵寒氣が致す位であるから心は矢猛に逸るともなか〳〵跡を追ふて行く譯には參りませぬ　才『思い運らせば乃公の大事を教ふて呉れた庄八なれども主命是非に及ばず召捕らねばならぬが身体が利かなくては何とも致方がない、今度は見逃していよ〳〵全快の曉に彼が居處を突留め主命を申傳へて召捕るより外に道はない』と決心し其儘勇吉方に厄介になつて居りまして、是から勇吉に梁川庄八の履歷を詳しく物語りければ、勇吉も始めて其素性を知り　勇『成程然う云うれ方でございましたか、召捕る方も義者、召捕らるゝ方も義者、義者と義者との寄合は斯くもあるものか』と勇吉は數多度感歎して、是より齋藤外記を敬ふの念一入深し看護にも念を入れて暫くの間外記を我家に止め置きました。此方は庄八此處に居ては事面倒なりとて甲府柳町の三樹屋を立出で鰍澤へ來て船に乗りました所が、實に樹の葉を風に飛ばすが如く、第一天神ヶ瀧、或は蛇が岩早川尻など云ふ川筋の大難處をば船の艫に突立てる一人の船頭が手に一本の棹を携へてちよい〳〵向ふの岩に突立て、或は此方の陰に突立てして、船を操り行く手際はなか〳〵手練のものでございまする、若し此操りを損ねると棹一本の過失から、乘合の者は忽ち川に溺れて九死に一生も免れ難し實に危きこと限りムいませぬ。尤も此船には思ふた程昔から過誤がございませぬが、以前彼處の縣令を勤めて居た藤村紫朗さん杯も此川に落ちた事がありまして其時は幸ひに救上げられたので生命には別條もございませぬが以來その處を縣令ヶ淵と呼んで居ります、其位危險な川でございますが庄八は其日の午過る頃首尾克く岩淵に着き上陸に及んで是より道を上方筋に取て立出でました、岩淵より蒲原を經て由井の宿を後にし倉澤の立場を後に薩陀峠を下つて、興津の宿、三保の松原を近く左の方に眺め清見寺を右に見て、彼から江尻の宿、江尻から駿府の城下を通り過ぎ阿部川を渡つて鞠子の宿、宇都谷峠を下りて岡部の宿藤枝より島田を經、大井を渡つて金谷の宿、夫より小夜の中山を越へて日坂に下り、掛川の城下を過ぎて袋井驛、見附の宿より天龍川、池田の古宿を後にして早や濱松の城下に致り、舞阪新居を打越へて宇須賀、二川吉田より御油赤阪を通越し、矢矧川を後に岡崎の宿、音に名高き矢矧の橋長さ二百八間東海道無双の長橋之を渡つて池鯉鮒より鳴海の宿に至らんとする桶狹間と云ふ處まで下りける折柄向ふに人聲が喧しう聞へる　庄『ハテナ喧嘩か知らん』と



追々近づき見れば旅に窶れし浪人者夫婦と覺しき者の周圍を取圍み裸人足十人ばかりで犇めき渡つて居ります、仔細やあらんと庄八樹蔭に立寄り窺ふとも知らず人足共『やい〳〵手前達が二分や三分の端金を出して是れで助けて下せへ、た見逃し下せへなんて何處を押せばそんな音が出るのだ己等は關所破りの浪人者、虹が見込んだ雨蛙なやねへが腹が裂けても取るだけ取らなきやあ通しは爲ねへぞやい野郎在る丈け出せ』浪『いや〳〵尤もなる譯ぢやが併し乃公共は嘗て關所を破つた例はない、其疑ひを受けては大きに迷惑の至りと云て、役所向きなどへ出ては些と面倒な我々の身の上ぢやに依て、何うか各々が特別の勘辨を以て見逃して給はれ有さへすれば何程でも遣はすが、生憎乃公共は長年旅に窮ゐて路用の金もなく、今は僅かに殘つた二分の金、是とても各々に進ずれば今宵の宿泊に差支ふる大事の金、併し背に腹は換へられぬ、之れを遣はすから何うか受納して呉れ』人『馬鹿云へ手前達は關所の二三ヶ所も破りやがつて二分で勘辨して呉れとは、面の皮の厚い奴だ、ゑー是れ二分ばかりの金で何うすることが出來るかへ、酒を買つて酒藥の先で振舞ても俺達の頭にやあ何處で酒の香がするか分らねへ、さあ斯うなるからは容赦はならねへ、何うでも斯うでも夫しかねへと吐せば仕方がねへ、御陣屋に召連訴へすれば笠の臺が吹飛ぶばかりだ』浪『然うひわんで乃公共は世を忍ぶ身の上、役所向きに出るは何分難儀であるから、幾重にも許して貰ひたい』と頻りに詫びて居る樣子でございます。

上海特電

▲北伐軍芝罘發 過般來芝罘東砲臺に駐屯なりし北伐軍は二十九日數隻の軍艦に分乘して何れへか出帆せり其目的地は多分滿州方面ならんと傳へらる

▲黎の言明 黎元洪は湖北の革命軍は目下財政窮乏にして到底銅塊の貯藏なく銀塊も亦多數鑄しあれば數ケ月の戰爭を繼續し得べしと言明したり

▲蘇州兵同士打 蘇州後防營第三標と前防隊兵士と府門附近に於て爭闘を起し總統府は之が爲に兵を派し日本租界に近きバン門。搶門に於て前隊は城壁に依り防隊は城外より盛んに銃火を交換し爲に負傷兵約三百に及び午後九時に至り双方引上げ漸く平穩に歸したり

▲大勢共和に傾く 北京發 進會は第一軍司令官沈宗運以下兵一萬武昌都督黎元洪以下兵一萬千江蘇防備軍以下兵二萬河南軍一萬總統衛隊六千河南總鎭六千第一第六旅及第二十第二十一の八師團長江艦隊九萬六千合計十五萬二千人の連名を以て…の上奏に及びたるが…天津軍第二十鎭の是に加はり居らざるのみなり

北京特電

▲退位愈々迫る 廿九日の御前會議に於て皇太后は退位の已むなきを認め一切の措置を袁世凱に托せり袁世凱は退位宣布の準備をなし禁衛軍第一鎭の軍兵を城外に移し第三鎭を以て警備總監とす

▲共和促進會の決議 北京發電報によれば共和促進會は廿六日大會を開き決議し直ちに之を袁世凱に致し其の實行を要求せり
一、停戰期間了するも戰闘を繼續すべからず
一、速に上奏して共和を宣布すべし
一、再び國事を破壊する王公大官等は…すべからず
尚は同會は同時に宣言書を各新聞社に配付せり

▲鐵良北京を去る 鐵良は革命軍の壯士に狙はれ北京を去り天津に逃れたり

▲元の復興説 蒙古人の間に大元國復興の議あり本年を以て大元興元年とし元朝の子孫を樹てゝ皇帝となすべしと

雜報

●議會と朝鮮問題 今期議會に於ける朝鮮問題に關し二十九日豫算分科會に於て主査長嶋登氏より二月六日を以て大体質問を終了する豫定に進行したき旨を述べて開會し先づ荒井委員より豫算の概要に關し小町委員より警務費部隊費並に言論出版に關し加藤委員より民業獎勵計畫並に特別會計の將來、沿岸航路補助並に東洋拓殖會社移民の方針、長主査及び三浦委員より方針等に關し質問あり荒井委員より夫々答辯したりと

●兩組合實施期 漁業及犬業組合規則は再三審議の結果確定したれば近々發布さるべく其實施は四月一日よりなりと

●陶汰法官と辯護士 朝鮮裁判所にては來年度より實施すべき制度改正に伴ひ陶汰さるべき法官の利便を圖り特に現行辯護士規則を改正し特別任用の司法官にも辯護士の資格を與ふる事に決し之と同時に開業者にも辯護士の資格を與ふべきや否やも詮議中なりしが審議の結果與へざる事に決定したりと

●地方廳費増加内容 來年度に於ける地方廳費の増加は二十七萬二千八百圓なるが今其内容を聞くに職員の増加は各道々事務官一名づゝ技師三名技師七名技手二名技手三四名の増加にして技師は地方の狀況に應じ山林畜産農務等の專門家を配置し其他の費用は職員の増加に伴ふ旅費舍宅料等を計上したるものなりと

●鮮銀第五期營業報告 明治四十四年十二月卅一日現在の朝鮮銀行第五期貸借對照表、同損益計算書及び利益分配案左の如し(單位錢)

第五期貸借對照表

資産	
未拂込資本金	五〇〇、〇〇〇、〇〇
政府貸上金	四、五九四、六七七、〇〇
定期貸	三、三三七、九二四、九五
當座貸越	一、〇九七、六九三、三三
割引手形	五、〇六一、六三六、四五
荷爲替手形	一〇六、五〇三、一七
別途貸付金	七、一九九、一八六、一八
預ヶ金	一、〇六八、一六三、八四
假拂金	三三、八八〇、二四
公債及社債	五、四四九、三二七、〇〇
他店へ貸	四三三、八六〇、二三
地所、建物、什器	一、二六六、五九六、一〇
新築費	一、〇二〇、七四七、三六
創立費	一〇、〇〇〇、〇〇
外國貨幣及手形	一六、七〇四、〇五
地金銀	二、〇六六、六一三、四五
金銀有高	八、〇二六、〇五一、三二
合計	四六、四一七、二九四、五五

負債	
資本金	一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
諸積立金	一六、一五〇、〇〇
銀行券發行高	二五、〇〇六、五四〇、〇〇
政府貸下金	一、二一〇、〇〇〇、〇〇
諸預ヶ金	六、九七八、二八一、二七
仕拂爲替手形	五七四、九二五、六二
借入金	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
他店より借	四九〇、八四五、九〇
未拂配當金	五、三八〇、七九
當期純益金	一三五、一六〇、九七
合計	四六、四一七、二九四、五五

第五期損益計算書

利益	
利息	三四〇、六七二、二三
割引料	一九八、二九三、四二
手數料	八五、四七九、二五
公債及社債利息	一二八、五三一、六七
公債當籤益	二三〇、〇〇
地金銀賣買益	二六、六七八、三三
爲替打歩	一、三五二、七六
雜益	四、二五三、八六
合計	七八五、四九一、五一

損失	
利息	一九四、八〇六、六二
割引料	一八、五四四、三九
手數料	一九、〇〇〇、二五
給料	一三一、九〇九、七五
旅費	一三、四〇六、〇三
諸税	四、九五二、九一
營繕費	一三、九八四、五三
雜費	一四四、四〇二、六九
雜損	八二四、九一
創立費消却	一〇、〇〇〇、〇〇
銀行券製造費	一〇、四八八、五〇
公債價格引下損	八九、〇〇〇、〇〇
當期純益金	一三五、一六〇、九七
合計	七八五、四九一、五一

第五期利益分配案

一 金七十八萬五千四百九十一圓五十一錢也 當期總益金
一 金六十五萬三百二十圓五十四錢也 當期總損金
差引
金十三萬五千百七十圓九十七錢也 當期純益金
内
金一萬五千圓也 損失補塡準備金
金三千五百圓也 配當平均準備金
金九千五百圓也 役員賞與金及交際費
金十萬五千圓也 配當金(政府持株三萬株を除き殘餘の七萬株に對し年六分の割)
金二千百七十圓九十七錢也 後期繰越金

●繭移出税撤廢 總督府にては來る四月より米穀移出税撤廢を斷行すと同時に繭移出税をも撤廢すべしとの事なり

●慰問使の着期 曩に朝鮮駐剳軍慰問の爲め御差遣の御沙汰を拜したる陸軍少佐奥村侍從は來る三日午後三時東京發五日朝釜山上陸同夜南大門驛着當地に三四日滯在憲兵隊及び駐剳軍を慰問の上西鮮地方より順次羅南方面を慰問すべしと

●仁川貿易の狀況 十二月中に於ける仁川貿易の狀況は輸移出額二十九萬三百七圓輸移入額百三十九萬五千百七十八圓にして前月に比すれば輸移出は十四萬二千九百餘圓を増し輸移入は二十五萬四千餘圓を減せり而して輸移出の増加は大豆の出廻り前月の約三四倍の盛況を見たるためにして輸移入の減少は冬物の仕入前月に於て略ば一段落を告げたるためなるべく尚對清貿易は輸出六萬六千二百二十九圓輸入十五萬千百八十七圓なりと

●今上御即位記念事業 實業之日本社に於ては明治四十五年の改暦と共に我が皇室の萬世無窮なる榮と我國運の永久無限なる發展を祝福せんが爲に一大壯擧を發表したるが其主旨はすべき來る明治五十年は今上陛下御即位の第五十年目に相當するを以て一大祝典擧行の外に永久傳ふべき記念事業を此機會に於て創始し茲に第二維新の根基を啓き國運の大發展を圖るべしとて第一、國家(政府)としての記念事業第二、地方(府縣郡市町村)としての記念事業第三、各種團体としての記念事業第四、學校としての記念事業の四項に分ち在朝在野の有識者に之が意見を求め二月一日發行の『實業之日本』より號を逐ふて毎號其答案を掲載する由なるが王政維新五十年を機會として此萬代不朽記念の準備を首唱し全國民の注意を喚起したるは頗る機宜を得たるものといふべし

懸賞論文募集

半島鑛業振興策

募集規定

一 懸賞金壹百圓
右は當選論文發表と同時に當該論文寄稿者へ贈呈すべし。
一 文章は論文体言文一致体何れにても宜敷成べく平易簡明なるを可とす。
一 當選論文の決定は本社爲め鑛業關係諸大家の審判に因るものとす、而して當選論文の數は一篇とす。
一 應募締切期限は來る三月一日とす
一 當選論文の發表は來る三月十日の本紙上に於て爲すものとす。
一 當選論文の發表は寄稿者の御希望に因り本名匿名何れになすも妨げなし但し匿名を要せらるゝ方と雖本社に對しては住所氏名を明かに通じ置かるゝ事
一 應募論文は當選外のものと雖應募者へ返還せざる事。

附記 本懸賞は實際的鑛業振興策を募集するものなれば文章の巧拙は敢て問はざるものとす

京城新報社

●一月中手形交換高 京城手形交換所に於ける一月四日より同末日まで一ヶ月間の手形交換高は一萬三千九百九十九枚三百八十五萬七千三百二十七圓九十四錢にして之れを前年同月の八千六百三十六枚三百十一萬九千〇五十二圓二十五錢に比較するに其の枚數に於ては非常なる增加を來し居るに拘らず金額に於ては差したる增額を示し居らず即ち本年は手形一枚に對する金額の概して小額なるを知り得るが如し而して本年に至り斯の如く手形交換枚數の増加に反し一枚に對する金額の小額なるが如き現象を見るに至りたるは昨年來市中に恩賜公債等多く分布され小賣取引上に影響を及ぼすに至り當座小口及び小切手類の使用頻繁となりたるに起因するものゝ如しと云ふ

●東拓の植林計畫 東拓會社に於て本年三月末より四月にかけて植栽すべき個所は黄海道延安郡の三百九十町歩の山林に對し二年生の櫟百三十萬本を植栽する筈なるが其苗木は東小門外往重苗圃に各種の苗木四百萬本あるが四十萬本は今春の植栽に充つる由なり尚苗圃事業としては前記往重苗圃に櫟百五十石アカシャ一斗ヤマハンの木一斗を播下する由

●黄海道工業品産額 黄海道昨年の各種工業品產額は織維工業に於ては生糸一萬一千四百五十二圓木綿二百七十五圓楮三千五百八十二圓莞草九千三百七十五圓麻五千三百圓絹織物一萬二千四百七十圓木綿織物七萬九千二百九十五圓紙八千五百圓花莚二萬四千三百十圓麻織物三千餘圓合計十二萬七千六百二十五圓にして又た陶磁器類の製造に至りては昨年來漸次隆盛を來し其の品種及び產額は甄爐水盆等一萬一千二百五十九圓食器六百五十四圓計一萬一千九百十三圓なるが其の製造窯數は總体を通じて百二十五個職工總數二百三十人なりと

●仁川水産會社總會 仁川水產會社にては三十日午後一時より重役會を開き四十四年度下半期收支決算報告に關する協議を爲したる結果今期は無配當と決し續て臨時總會に移り定款改正の件及役員改選を行ひ村谷、平山、入田、穎原、守永、秋田、竹田山本の八氏當選し尚專務取締役は追て互選する事に決し同十一時五十分散會せり

●蔚山捕鯨の成績 蔚山方面を根據とする捕鯨の成績は昨冬より今春にかけては稍不況なりしも今春以來相當の捕獲あり例年より少なからずと云ふ而して目下同港に集合しつゝある捕鯨船は約八九隻なりとの事なり

●移入穀税撤廢運動 在鮮商業會議所聯合會は朝鮮米移入税撤廢の爲め運動員を東上せしむることは既報したるが大阪の朝鮮貿易組合に於ても同一の目的を以て運動することに決し同組合よりも委員を東上せしめ聯合して極力運動する旨申し來れりと

●南鮮海岸の不獵 目下朝鮮沿海は一帶に鰤、鯖の盛漁期にして南海岸に於ては巨濟島より濟州島に至る間は毎年漁船の密集する時なるも本年は濟州島沿岸は非常の不漁にして同方面に出漁したる內地漁船は漸次引揚げつゝありと云ふ

●忠淸南道最近事情 忠南道某當局者談

▲昨春來現今も 尚ほ盛んに行はれつゝあるは土地賣買にして四十四年一ヶ年間に於ける忠淸南道廳管內の賣買價格二百五十萬圓以上に達す連山江景等騰貴率非常に高き都會地は例外とするも其他の地到る處二三割高を以て土地賣買頻繁に行はる而して

▲就中現下發展 の階段に在るは沿海地方にては瑞山、禮山、中央部にありては扶餘、恩津、魯城地方にして內地人の投資盛んに行はれ道廳にても此等各地間に道路を新設し交通の便に努めつゝあり尚ほ四十五年中には朝鮮郵船會社の群山港よりの寄港地沿海數ケ所に設けらるゝことに確定したるを以て此等寄港地間の陸上連絡をも計るべく道當局者は目下新道路の開鑿中なり殊に其の舒川は

▲第二の群山港 たり得るの希望充分なり即ち同地は全南群山港を距ること對岸僅に十六町にして後方には廣漠たる沃野を控へ米穀移出港としての資格に富むを以て明年度に於て群山への渡航場を起點とし舒川邑面其他附近各地に通ずる海岸道路を新設し大に其の發達に資すべく道廳にて計劃中なり而も本道

▲沿海十二郡中 牙山、沔川、唐津、瑞山の四郡は仁川港の勢力範圍に屬し泰安、結城、庇仁、舒川、藍浦の諸郡は現時尚ほ群山港の勢力によりて左右せらるゝこと多しと雖も此等沿海諸郡は併合以來各其の群山若しくは仁川への連絡關係完全なるに至りたるを以て物資の開拓は僅に一年を經過したる今日に於て非常なる發展を成せるものゝ如し

▲米穀は勿論本道 主要產物の一にして四十四年の產額七十萬圓以上に達す是れ道當局者が改良種の耕作を獎勵し米穀耕作の積極的獎勵法を採りたるの結果にして改良種耕作の結果は昨年の產額の如き九十八萬石の增收を見るに至れり米穀に次ぐ主要農產物は麻にして道廳にては地方金融組合をして共同販賣の事務を行はしめ其の栽培を獎勵し舒川、鴻山方面最も盛んに栽培行ひつゝあるが結果良好にして年六十萬圓の產額を見るは難きにあらず又た沿海十二郡及び島嶼を合せ海岸線

▲延長五百九十哩 の長きに達し各種の魚介類に豐富なるも本道漁民の漁船比較的僅少にして未だ充分なる漁獲を舉げ得ざるが如く道廳にては調查の結果小規模の漁業組合を多數設けしむると共に漁業傳習を獎習せしめ以て本道漁業の發達を期すと

▲道路の如きは 四十四年に於ては前年より延長四百里の增設を見るに至り今や全道中一局部の外は到處車馬の往來自由ならざる處なし又た

▲一道の一特色 とすべきは兩班儒生の數極めて多く數に於て殆ど十三道の半を占むることにして彼等は頑迷固陋なる代りに一度時世を觀取すれば進んで新事業に赴くの風あり目下彼等にして着々新事業を經營する者あり又た衛生狀態の如きも甚だしく其の面目を改め飲料水の如き所在に井戸を鑿し彼の林川チストマの本源地たる林川に於てすら鑿井の結果現に十六個所の純良なる飲料水を發見するに至れり

●商銀倉庫合併認可 朝鮮商業銀行と漢城共同倉庫株式會社と合併の件は三十一日附を以て總督府より認可されたり

●京城民會の開會 京城民會は三十一日午後三時より開會稅制整理案其他一二件に付討議したり

●政務總監の微恙 山縣政務總監は三十日夜來風邪にて引籠靜養中

●士官候補生志願者 豫て軍司令部に於て願書取纏め中なりし本年度各駐剳部隊よりの士官候補生志願者の願書は三十一日を以て締切りたるが僅かに六名なりと

●內務部長全部歸任 部長會議終了後も久しく滯京中の各道內務部長は卅一日を以て悉く歸任したりと

●軍司令官の見舞 上田軍司令官は二十九日午後より中村副官を隨ひ邸に總督の病狀を見舞ひたりと

●中山大佐の送別會 中山大佐の後任河野中佐は二日着任に付同夜中山大佐の爲めに各部局長官は花月樓に於て送別會を開く筈

●膳檢事の送別會 元高等法院檢事膳鉦次郎氏は不日出發赴任につき裁判所監獄其他司法事務關係者は六日午後五時半より花月に於て送別會を催ふす由

●市原總裁の東上期日 市原鮮銀總裁は來月廿日東京に於て開催さるゝ…に列席する爲め來る四日頃出發東上すべし

●新快濟丸の修繕 仁川本町仁和…汽船新快濟丸が仁川發海州中途島冲にて坐礁せしは已報の如きが同船は二十七日午後八時干潮…曳かれ無事仁川に入港したれば直ちに修繕を加へ不日再び同航路に使用するべしと

公人私人

▲若松兎三郎(釜山府尹)一日夜發…
▲宮川武行(前警視)廿九日入京浦…
▲小山七郎(春川農銀支店長)三…春川へ
▲守部鹿次郎(醫學士)三十日原…
▲小實龍之助(東拓大邱出張所長)…日不知火へ

▲京城手形交換高

一月卅一日 二二九、五三四、九五〇

▲茶袋▼

『朝鮮の產業は實に有望である、母國の移住者は一時の目的を以て努力するに屈せず、永住の目的を以て努力するに於ては必ず成効者たり得べし』とは元村井農場主事渡邊某が或る雜誌記者に語つた言である▲併し村井農場は昨年の夏頃收支相償はぬ處から遂に事業を中止し、不幸にも所謂成効者たり得る能はず中途で御陀佛となつたではないか軍の將兵を談ぜずとは御の生れた經歷談は餘りゾッとしないナ▲朝鮮貴族尹德榮は近頃何んと感ヴ日本人相手の貸家商賣を…ものか、明治町邊の土地家屋を盛んに買ひ立ち、收して居るさうな▲トコロが其の金だ、皆んな借金で中には大分高利の金もあるとかだ、現に此の間も明治町の或る人のところへ行つて借金の調達方を頼んださうだが其の者は餘り尹の話しが旨いので薄氣味惡く思ひ、結局体裁よく斷つたが後で傍らの客に『實際の朝鮮人のことだから解らない、現に角高い利を拂つて高い土地やら家屋やらを買ひツレで明日から利を見るといふのだから堪らない、アンな相談はマッ〳〵御免だ』といつたゲナ



元花月の仲居頭　れのぶの述懐談

人、人々、思ひ〳〵の感に打れて差向ひて人無き体、暫時あつて取つて付けた如にハヽヽヽと聲を放つて笑つた粟女『夢の如でムいますね其時分の事を考へますと恰で何十年かの昔の如な氣が致しますが伺ひますれば今日の景成は私が御厄介になつて居りました時代と違ひまして茶屋さん抔も以前の様には賑はない相でムいますが夫でも私の舊主人花月は今でも一番繁昌致して居る相で陰乍ら喜んで居りますことでムいます、御承知の通り花月は主人がア、しました人好で夫に帳場の武内さんが氣の好い人なんですから客様は勿論、藝妓仲居なぞも誠に居心の宜しい家でムいます、ハア左様だ相でムいますつてね、仙さんアノ人なぞは仲居さんとしたら立派なものでムいますよ、何時だつたか京城から見へになつた客様に伺ひました事でムいますが花月も今では百疊敷からの座敷を拵へだ相でムいますが私が居りました時分には少し大きな宴會になりますと座敷が無つて困つたものでムいます、アノ伊藤の御前の御宴會や西園寺の御前が見へました時の御宴會なぞ夫りや手狹で困つたものでムいますよ、エヽエ夫りや其頃の事を考へますと随分種々面白い話もありますよ何にしろ貴許、景氣が景氣なんですものね』語り來つた粟女の顏には若き血潮の漂ひて思ひ出の情に燃ゆるが如く輝く『お話すれば面白い事も數々ですが夫れは却つて罪でムいますから預りと致しまして旦那のお惚氣でも伺ひましようか、其様に他の話斗り聞きたがらないで些たア聞かせて下さいな……アラ又下さるの、異實に今夜は驚うしたつてのでしよう幾程でも戴けるのですよ、餘程お腹の虫が久し振で旦那にお眼にかゝつたのを喜んで居ると見へますよ、お酌を致しますよ、今夜は浮氣を徴成つて此私が奥様に成り代つて決して其様真似はお為せ申しませんよ』氣を許して飲んだ酒の廻りも早い『何にしろ私が初て花月さんへ御厄介になつた斗りの頃は總督府だの統監府だのと云ふ窮屈千萬な者はムいませんので京城のお客様で一番偉いお方が公使の林權助さんでしたものねデすから其時分の御宴會に床の正面に置物になるのは何時も權助の旦那様で随分幅をお利かせなつたものでムいますよ、併しですね幅を利かすもの必ずしも貨幣をお費消ひになるとは限りません、權助の旦那なぞも其方でムいました、其頃私共の爲に成つた方と云へば物産の支店長でした小田柿の旦那でムいましたね、其時分の事を考へますと斯う恰で繪の如でムいますよ、何にせ長い間の事ですから一々覺へても居りませんがねアノ野田平さん……左様です今では子爵の殿様とか云ふ野田平さんが毆う云ふ理由でムいましたか權助の旦那様に花月の二階で撲るやら蹴飛ばされるやら酷い目に逢はされた事がムいました、毆うした理由で御座いましたかねエ、其場は何誰かの御仲裁で濟むことは濟みましたが』語り來つた粟女は小供らしく其所へ笑ひ倒けたのであつた。

●役人もすれば窃盜もする

▽何方も人間のする事　去る二十六日午後十時より十二時の間に於て大和町三ノ五八小池瀧十郎方の不在中押入柳行李の中に入れ置きし衣類十二點價格百九十九圓を何者にか窃取されたる旨の屆出でに接し南部署の佐藤長野岸の三刑事が現場に出張取調べたる結果犯人は同家の昵近者ならんと目星を着けて搜索中長崎縣長崎市袋町二十四番地當時太平町一ノ一六居住無職村田義男（二〇）と云ふが昨年十月度支部を解雇せられて以來無爲に日を送りながら身分不相應なる風体を裝ひ金錢を亂費するを探知したれば二十七日午後四時頃太平町一丁目路上にて出會したるを幸ひ嫌疑者として本署に同行を求め取調べたるも初めは言を左右に托して實を吐かざりしが所持金三圓の出處を問ひ詰められて包み切れず逐一自白に及びたる次第は二十四日午後七時頃、懇意なる小池方に遊びに行き居る中誘はれて梅の家の淨瑠璃を聞きに行き小池の聽き惚れて居る隙に乘じソツと小池方に立ち戻り衣類十二點を窃取し自宅に持ち歸り温突内に隱し置き二十五日午後二時贓品の中糸織男物袷羽織外三點を仁川に持ち行き新町二丁目繩田質店に二十圓にて入質し殘品を二十六日に至り宮崎清高鶴崎秀雄など僞名し太平町一多田本町一裏通南及び村田旭町二平手の各質店に入質して得たる金を以て酒食に耽りゐたるなりと尚餘罪ある見込にて引續き取調中

●女郎屋に大賭場

▽南海樓は營業停止か　佐賀縣人西大門外獨立門通二理髮業野崎利三郎（三三）東京府人永樂町二細見方煉瓦職松元初太郎（三三）香川縣人本町一理髮業松田卯之助（三三）廣島縣人明治町二大工河在津定四郎（三四）大阪府人永樂町二請負師細見信次郎（三〇）三重縣人大和本町六理髮業野田國藏（三三）廣島縣人櫻井町大分利助方大工向井周次郎（三〇）佐賀縣人大和町二松尾鶴松（三八）外四名の者が三十一日午前三時頃大和町三丁目第二種料理店南海樓事篠原種次方二階四疊半の室にて金錢を賭し賭博の開帳中を南部署宮崎名塚寺田鮫島杉山の五巡査に踏ん込まれたれば周章狼狽逃走せんとするを片ッ端より縛し上げ現場に散亂しありたる一圓紙幣十二枚十錢銀貨九枚二錢銅貨一枚一錢同五枚及び骨牌二組と三十五枚並びに逃走者四名の遺留品墓口一小形折鞄一鳥打帽三入袷襟巻各一枚宛を證據物件として押收し本署に引致取調中

●當世『雇人氣質』

▽家來も家來主も主　仁川外洞尹二男（十九）が去十日頃より花開洞蝸甫弄花（二〇）に現を拔かし流連したるより三十日仁川署の刑事が擧動不審と認め本署に引致取調べたる處此奴は元京町一丁目米穀商高野周三郎方に雇はれ中同家の金庫より現金七十圓を窃取逃走したる事自白に及びたるより尚引續き余罪取調中因に高野周三郎は尹か拐帶逃走したるを知るや之を警察沙汰に爲しては該金の戻る筈なければとて尹の父に談金の辨償を迫り家財道具を競賣に附せしめて金四十圓を領得したりと云ふ

●雜誌『新半島』の廢刊

▽山道亞川子の濡京用件にて歸鄉中なりし新半島社長山道亞川子は頃日來城新半島廢刊の手續中なりしが三十日を以て右完了と同時に或る筋より慰勞として五百圓位の賜金ありしを以て數日間宿泊在貸借の決濟をなす筈なりと因に同氏の宿所は京城日報社の隣家なりと

●横着至極な百姓　原籍福井縣南條郡武生町松本士農夫（三五）は芝罘日報社員なりと自稱し昨年十月中より舊龍山元町三丁目二十七番戸下宿業太陽館事七種つる方に宿泊し居りたる處固より宿料の貯へとてはなく再度館主より宿料を請求せらるゝも自分は安東縣に或る事業の計畫中なれば其内に仕拂ふべしなど云ひ逐には勝手にしろなど暴言を吐き取合はぬにより館主も堪へ兼ね此程龍山署へ無錢宿泊者として告訴に及びたり

●買つた奴も不良　德島縣麻植郡山崎村山瀨當時南山町二の五二渡邊方手傳人河村國市（一八）は二十八日午後四時より十一時の間に於て一同の不在に乘じ同居人淺井保の室に至り押入柳行李の中に在りし十六形金側懷中時計一個價格七十圓を窃取し南大門附近の鮮人時計店に四圓にて賣却したるを南部署荻野川副兩刑事に探知され二十九日午後七時南大門驛前にて取押へられ取調中

●盲人の妻の姦通　西部盤石坊翰林洞七十一統七戸草鞋製造人姜成益（四三）は隣家に住居する豆腐商盲人石聖老（三六）の妻金姓女（三二）と昨年六月頃より姦通しゐたるを近頃に至り石が聽き知り二十九日夜姦夫方の内房に姦夫姦婦が不義の快樂に耽り居たるを突き留め西大門分署に訴へ出でたれば兩人を引致し取調べ中

●朝顏栽培法無代配布　長野縣下高井郡延德村宮島の朝顏園に於ては多年栽培上研究の結果趣味多き朝顏栽培法、盆栽仕立朝顏木造り栽培法、朝顏種の注意、大菊花栽培法等を同好者二萬人に限り無代無郵稅にて何人にも申込みの順に依り直送し尙名鑑等も入用の人には同無稅にて何處迄も送り屆ける由を本社へ通信ありたり

●孫澤ホテルで賭博　西部盤石坊蛤洞李榮植（二〇）同仁達坊櫻井洞金明汝（四五）同餘慶坊紫門洞李聖兩（四三）同貞洞西洋人倶樂部内鄭天應（三九）同積善坊土后洞金春三（三九）及び南大門外牛首峴李聖泰（三九）の六名が三十日午後五時貞洞ソンタクホテル内雇人鄭元應の室にて賭博中西大門分署刑事の手に捕へらる

●仁川宮町のボヤ　仁川沓洞十七統六戸金召史方温突より三十日午前八時三十分出火し直ちに常備消防隊駈付該温突半燒にして消止む

●十五圓を遺失す　舊龍山榮町三十六番戸中島雜貨店員山川初次は二十九日新龍山よりの歸途在中金十五圓の財布を遺失し青くなつて龍山署へ屆出づ

●賭博犯人を告發　舊龍山榮町百卅二番戸福島勳、森岡善次郎、祝一郎の三名は二十九日大竹巡査により賭博犯として龍山署に告發せらる

●負債を苦にして自殺　仁川府内面平洞三十七統六戸兪致連（四八）は六十圓の負債を苦にして二十九日午後七時頃苛性曹達溶液を多量に服用し自殺を圖りたりと

洋犬紛失

一ドイツポインタア牝犬一頭
特徴　毛色白色肝臟色肋に大白點あり　兩足半白短き尻尾大きなる光る眼前
右は『ドラ』と呼べば來る大なり
右の御見當の御方は左記へ御知せ被下候へば相當の御謝禮を差上べく候

西大門分署又は米國領事館

●演藝だより

●壽座の藝妓芝居

既報の如く京城券番藝妓芝居は愈々來る四日より向ふ三日間壽座に於て開演のことに決しソレ〳〵準備中なるが殊に這回は多年女優として劇壇に立ちたる鍋道樂主人澤田初子が引退の意味にて加入する由にて森勝次氏よりは緞帳を櫻正宗日本麥酒よりは積樽積箱等の寄贈申込あり前景氣甚だ盛なり入場料は特等一圓一等七十錢二等五十錢三等三十五錢なりと

▲浪花館　三遊亭圓若一行にて二月十五日まで日延べをなす大切は座員總出の住吉踊にて賑やかに御機嫌を伺う

▲壽座　一日の狂言前『忠臣藏茶屋場』中幕『六助住家』同『玉藻前道春館』切『鬼一法眼菊畑』なりと云ふ

▲歌舞伎座　浪花節芝居の元祖と云ふ市川小圓次一座にて一日の狂言は『九州男子博多五郎』切『赤垣源造德利の別れ』にして少年浪花節語り桃中軒雲童は一座中の呼物なりと

●氷滑場雜觀

△生

▲氷滑場と云ふ事は英語で云ふと氷をスケーと云ひ滑りをチングと云ひ場をグラウンドと云ひ氷滑具をスケートと云ふ相だが英語つてゐものは面倒なものだ▲孝明天皇祭の當日日本一と云ふ其スケーチンググラウンドを見に行つたが半分程はザタ〳〵で迚も滑れぬと見へて滑つてるのは三分の一程の所、左西寄りの邊は溶けて居た▲江戸ッ子の岡崎さんや江戸ッ子の岡さんや江戸ッ見の吉野さんやは厚い大きい氷と云つたら天水桶のより他は見た事が無いもんだから『アノ位の氷を見ると日本一と思ふのだらう無邪氣な所は慥に江戸ッ見だ▲が茲に巫山戲切たるは白川田君、鯨洋奥田君等の粉飾的舞文だ、如何に吉野君が日本一と書けと云つたからとて鴨綠江の氷を見て來た人の側で眞面目腐つて日本一〳〵と二號活字でさ▲別の話だが恥も掻きつけると夫れ程では無いと見へる▲日韓瓦斯電氣が拵へて京城日報社に主催せしめた氷滑場は三十間に四十間として僅に千二百坪だ夫れで溶解た結氷だとれ天氣を氣にして居るのは愚だチングる人チングられる人兩者の爲めに計るに此は一つ硝子張りになさつたら座うかい實際數千金を投じになるなら拙者請負ひ申すよ▲夫から水道の水を入れたイ入れると仰云つて居たが三十日には▲ノ側の堀割から電力を利用して水を入れて居たイヤ嘘だと云へば云つて試ろ、云へまい、云へない筈だ、上田君も奥田君も蒲生君も立會つて居たんだもの▲嘘も吐きつけると少し位吐いたのでは吐いた氣がしないと見へる▲三人計り巧くチングる人があつた内の一人は稻村と云ふ人の子で隈本先生の名に依つて不良少年と斷定された中學生であつた故に僕は始終其擧動に注意を怠らなかつたが彼の運動振は極めて堂々たるもので又極めて公衆的で決して他見童の妨害になる様の擧作は無かつた三時間餘の長きに渉つて▲田中半四郎君が六歳になる坊ちやんを伴れて來た『先日は長々と御厄介に』と云ふ御挨拶『一萬坪だなんて千坪も無いぢやないか……僕は圓丘壇に千坪程の廣さで深さ二尺五寸位のセメントの池を作つて夏は兒童の遊泳場に冬は夫れを其まゝの氷滑場としたら便利なる事を主張して居る一萬圓もあつたら出來ようぢやないか』と語る▲上々の案だ、僕は大賛成の意を表したのみでなく茲に附記して其實現せんことを望んで置く▲來る四日開場式を擧行する夫れまでに大にスケーさしてチングらせ様と云ふので水をナミ〳〵と入れたのでチングつてる連中大氣で上つた（三十日午後四時）

株式會社漢城銀行第十三期貸借對照表

（明治四十四年十二月卅一日）

負債

科目	金額
資本金	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
政府貸下金	一〇〇、〇〇〇、〇〇
諸預金	一、〇二四、三一七、七七
他店ヨリ借金	三六、三九四、五三
當座借越	九三、四七三、八三
支拂送金爲替手形	七、一三〇、六六
積立金	五、〇〇〇、〇〇
支拂配當金	四六八、一五
前半期繰越金	六、〇七七、八三
當半期純益金	三四、二四〇、二二
合計	四、三〇七、一〇二、九九

資産

科目	金額
未收入資本金	二、二五〇、〇〇〇、〇〇
諸貸金	一、二五二、五二二、二三
他店へ貸	〇二
土地建物及什器	三〇、七八六、三三
假拂金	三三、一三二、二四
有價證券	六五七、三〇〇、〇〇
預ケ金及現金	一〇三、三六一、一八
合計	四、三〇七、一〇二、九九

損益勘定

科目	金額
當半期總益金	一〇三、二二三、八四
前半期繰越金	六、〇七七、八三
合計	一〇九、九九四、六七
當半期總損金	六九、六七六、六二
差引當半期總益金	四〇、三一八、〇五

此配當計算左ノ如シ

科目	金額
積立金	五、〇〇〇、〇〇
役員賞與金、交際費及行員給與基金	二、七〇〇、〇〇
株主配當金（年七分）	二六、二五〇、〇〇
後半期繰越金	六、三六八、〇五

明治四十五年一月
株式會社漢城銀行
長取締役男爵　李允用
専務取締役　韓相龍
取締役　趙鎭泰
支配人　李升鉉
前記各項ノ調査ヲ遂ゲ其正確ナル事ヲ保證ス
監査役子爵　閔泳徽
監査役　鄭永斗
追テ取締役男爵李允用韓相龍監査役鄭永斗滿期ノ處何レモ再選重任ス

株式會社韓一銀行第十一期營業報告貸借對照表

（自明治四十四年七月一日至同年十二月卅一日）

負債之部

科目	金額
資本金	五〇〇、〇〇〇、〇〇
諸積立金	六〇、〇〇〇、〇〇
未支拂配當金	一五七、八六
諸任金	五五九、八一〇、五五
內別　定期任金	二六六、五七〇、四七
無期任金	一二七、二三六、四七
小額任金	一四三、五五四、七二
任金手形	七、一九〇、〇〇
通知任金	一、二〇二、七五
別段任金	一四、〇五六、一四
支拂送金手形	七二三、五〇
借入金	三三八、四四二、〇六
他店ヨリ借金	八、三二七、三六
當半期純益金	二一、〇九三、三八
前半期繰越金	二一、八四七、八〇
合計	一、四〇〇、四〇二、五一

資産之部

科目	金額
拂納未完資本金	三七五、〇〇〇、〇〇
任出金	三、一一四、三八
貸付金	五四、〇九九、二〇
無期過擬	八一、三三一、三六
割引手形	七二九、〇二八、八九
有價證券	三〇、四六〇、三五
他店へ貸	四、三二八、二六
支店未達	二九九、六〇
家屋	一二、四九六、四四
什器	三、一四七、六四
金銀	一〇七、〇九六、三九
合計	一、四〇〇、四〇二、五一

損益計算

一金五萬五千八百八十二圓十四錢　本期總益金
一金二萬一千八百四十七圓八十錢　前期繰越金
合計金七萬七千七百二十九圓九十四錢
一金三萬四千七百八十八圓七十六錢　本期總損金
殘金四萬二千九百四十一圓十八錢　本期純益金

此配當計算左ノ如シ

金三千圓　準備積立金
金七千圓　別途積立金
金六千二百五十圓（年一割）　株主配當金
金二千一百圓　役員賞與金
金二萬四千五百九十一圓十八錢　後期繰越金

株式會社韓一銀行
頭取　趙秉澤
専務取締役　白寅基
取締役　白周鉉
取締役　朴泓鎰
取締役　劉秉璉
支配人　金鎭玉
前記ノ各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證ス
監査役　李相弼
監査役一人補缺選擧ヲ行ヒ李容汝氏當選ス